

教員としての円滑なスタートを支援する取組

A Support to start up the Teacher's job smoothly

平岡 健*

Ken HIRAOKA

はじめに

文部科学省が行った調査「指導が不適切な教員の人事管理に関する取組等について」によれば、教員として採用され1年間の条件付き採用期間後、正式採用されなかった者の数は、平成18年では295人、平成19年では301人、平成20年では315人と年々増加の途をたどっている。埼玉県においても平成19年10名、平成20年11名が正式採用になっていない。その内訳の多くは、精神疾患や自己都合である。近年、学校や教師を取り巻く状況は、厳しさを増している。川村（2006）は、その厳しさとして3つを挙げている。①子どもたち個々の個別対応の多さ・難しさと、集団としての教育の難しさ②保護者の要求・クレームの幅広さと強さに対する対応の難しさ③地域社会の現状とモラルの低下に対する対応の難しさである。加えて、初任者には「即戦力」としての期待が大きく、より厳しい状況に置かれていると考えられる。こうした状況の中で条件付き採用後、無事正式採用された教員であっても、少なからずの困難と出会い、悩み、教員としての自信を失いかけた場面があったに違いないことは容易に予想できる。

上記の現状を見据え、埼玉県を中心に多くの教員を輩出している埼玉大学教育学部においては、教員として必要とされる資質・能力の育成はまさに使命であるといえる。質の高い力量ある教員の養成を目指すことはもちろんのこと、こうした厳しい状況の中で、円滑な職務遂行ができる教員の育成にも積極的に取り組んでいる。学校現場の「学級経営が安心して任せられる教員」「生徒指導をきっちりできる教員」「保護者との良好な関係が築ける教員」をぜひ育てていただきたいとの小・中学校等の要望にも応えていきたいと考えている。

1 教職スタート準備講座の概要と工夫改善

本学部では、教壇に立つ学生に対して様々な教職支援を行っている。教職スタート準備講座もその中の環である。

教職スタート準備講座は、本採用・臨時的任用にかかわらず、4月に教壇に立つ教育学部4年生を対象に円滑な教職スタートが切れるよう、教員としての基礎的な知識・技能を培い、教員としての資質を養うことを目的としている。

この講座は、平成19年度に進路指導委員会と教育実践総合センターの共催という形で始まり、工夫改善しながら現在にいたっており、例年10月から2月までの期間、週2コマの授業を開催している。平成19年度・20年度の取組については、石田（2008）を参照。

これまでの取組を振り返ってみるならば、この講座の課題は学生の参加者数の拡大にある。平成19年度は、多くて1講義あたりの参加者数は平均5.4人、平成20年度は、21.9人である。傾向としては、10月から初回から3回までが参加者数が多く、その後は回を重ねるに従って先細りとなる。卒論提出時期となる12月は、参加者数が減ることは止むを得ないとしても、埼玉県内に少なくとも100名以上の学生が教員として4月を迎えることを考えれば、全体的に少ないことが問題である。学生には教員としての準備を整え、4月を迎えてもらいたいし、学校現場における円滑な職務遂行や運営へつなげていただきたいと強く願っている。

参加者数が少ない理由としては、これまでの取組の反省から①広報、②授業時間、③授業テーマ、④授業形式があげられる。

平成21年度では、これらの点について改善し、参加者数を拡大するとともに、円滑に教職をスタートできるよう支援していく。以下21年度の工夫改善事項を示す。

(1) 広報の改善

教職スタート準備講座の要項作成・配布するだけでなく、テーマや内容を入れたA4サイズのポスターを作り、各回ごとに教職支援室掲示板に掲示するようにした。あわせて、ホームページにも内容を紹介するようにした。

また、授業の最後には次回の予告を行い、参加を呼びかけるようにした。

* 川越市立霞ヶ関北小学校／埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター研究員

(2) 授業時間

これまで、週2回3, 4時間目、5, 6時間目に授業を設定してきた。本年度は、学校現場等から指導者を要請することもあり、10月から12月は週1回7, 8時間目をあて、参加者数が先細りとなる1月から2月にかけては、あえて週1回7, 8時間目と9, 10時間目の2コマを授業時間にあて、4月を迎える準備の大切さを強調する計画とした。

(3) 授業テーマ

川越市教育委員会の行っていた初任者対象「今、ちょっと悩んでいること、教えてほしいこと」を参考に、必要となるテーマを加えた。「今、ちょっと悩んでいること、教えてほしいこと」というのは、実際に初任者が教育活動を進める中で、悩んでいること等を随時A4の用紙に記入し担当指導主事に提出し、そのことに対して担当指導主事から相談やアドバイスを受けるというものである。

この資料の中から初任者が出会った危機を拾っていくと、学級経営がうまくいかない、特別な支援を必要とする子どもへの対応がわからない、どのように生徒指導を行えばいいか、事務処理に時間がかかるため、日々仕事がどんどんたまっていく、教材研究をする時間が取れない、保護者にどう対応していいか不安といった内容が多い。これらの悩みを参考に、新任教員の準備となるよう、授業のテーマとして取り上げ、講座内容を決定していった。

また、授業テーマの表現を「魅力ある授業づくり」ではなく「授業の核は、発問づくり」といったように内容が具体的にわかるようにした。

(4) 授業形式

講義よりも、書く、発表する、ロールプレイを行う、グループで協議するなどの演習的な要素を組み入れた授業を多くした。

また、指導者も教育実践総合センター専任教員のほか、学級経営の危機的な状況を潜り抜けた初任者、教育委員会指導主事、教頭、優秀教員に認定された教員等にお話し、生の教育現場の実情と出会える機会を充実させた。

(5) プログラムの構成

学生の参加への意識を高めるため、開講式と閉講式を設け、特別プログラムを組み入れた。開講式特別プログラムでは、埼玉大学前年度の卒業生とその学校の教頭先生を講師に、初任時での危機的状況を振り返りつつ、いかに教員としての準備が大切かを講義していただく。閉講式では、優秀教員制度で優秀教員に認定された先生に、教員の魅力について講義いただき、教職への意欲を高めていくようにした。

(6) その他

下記の事項を留意事項として、参加学生に周知する。

○12月までは、7, 8時間が講義・演習。9, 10時間については個別に不安なことや質問に答える時間として空けてあります。

○1月からは、まじかに迫った教員としての仕事、特に4月から特に必要となる事項やこれまでの新採用教員が困難と感じている事項を集中して行います。

○12コマ以上に参加した学生には閉講式にて修了証を渡します。

○教員としての事前練習を兼ねていますので、次の事項を守ってください。

- ①開始時刻を守ること
- ②教員としてふさわしい服装で参加すること
- ③教室の環境を整備すること
- ④欠席する場合はかならず教職支援室に連絡すること

2 取組の実際

平成21年度教職スタート準備講座は、下記のとおりプログラムで行われている。

月	日	曜	7, 8時限	9, 10時限
10	22	木	開講式(特別プログラム)	
	29	木	知ってますか、教師の一日と学校の一年間	
11	5	木	社会人、教育公務員として必要な基礎的な法知識	
	12	木	どんな仕事をすればいいの 校務分掌	
	19	木	子ども理解ってどうすればいいの	
	26	木	保護者・地域との出会いと対応がものをいう	
12	3	木	学校での効果的な教材研究の方法	
	10	木	知らないでは済まされない学校事故への対処の仕方	
	17	木	評価って、どうやってつけるの	
1	14	木	生徒指導の基礎・基本これだけはやっておきたい生徒指導	子どもの理科嫌いをなくすために～実験・観察のポイント～
	21	木		学級通信づくりの基礎・基本
	28	木	道徳の授業を作ろう	特別な支援を必要とする児童への対応
2	4	木	学級経営案をつくろう	授業の核は、発問づくり・力の差が出る板書とノートの工夫
	18	木	学級びらき(始めの4日間何をするか)	学級事務に強くなろう
	25	木	第1回保護者会を乗り切るために	閉講式(特別プログラム)

第1回 特別プログラム「教師員になる準備」



第5回 子ども理解ってどうすればいいの



第9回 生徒指導の基礎・基本



第10回 理科嫌いをなくす 実験・観察のポイント



第12回 学級通信の基礎・基本



小さな花が集まって1つの花をつくり、綿毛となって大空に飛び立つたんぽぽ。協力し合い、大きく飛躍するよう学級にはつよいという願いをこめて、この名前にしました。

どんな人かな?ドキドキの出会い

担任発表の時、「だれ?」「見下さない...」「若い!」など、様々な反応を見せられた子どもたち。教室に行くと、不審そうな顔やわくわくしているような顔どじとこちらを見ている。私が大きな声であいさつすると、子どもたちも元気にあいさつを返してくれました。緊張しはがらも、しっかりとあいさつのできるいい子たちです! これからの1年間が楽しみです!

学級目標が決まりました!

自己紹介をした後、学級目標を決めました。まだまだ緊張していたみんなとは別人のように積極的に意見を述べてくれました!!

「明るいクラス」「楽しいクラス」「仲のいいクラス」... みんなが決めた目標は、

協力し合い、
色々なことに
チャレンジするクラス

です! 3組全員ががんばるいいクラスを目指し、がんばっています!!

集合写真

黒板に書いてある
学級目標を背景に

自己紹介

3年3組の担任になりました、永野 清香 (ながのさやか) です。私は小学6年生の時の担任の先生に憧れて、小学生の時からずっと先生になるのが夢でした。

清道は小学1年生の時から15年間続けています。明るく、おもしろいことが大好きです。小学生の時の通信簿には毎回「おび強」と書かれていました。持ち前のおび強さを活かして、子どもたちを成長させていきます。

私の写真

明るく、元気に、前向きに! とモットーに、保護者の方と一緒に子どもたちを育てていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします!!



第13回 道徳の授業を作ろう



道徳の時間の模擬授業体験

第14回 特別な配慮を要する児童・生徒への対応



特別支援学級で実際に行った指導を体験

最終回 特別プログラム「教師の魅力とやりがい」



埼玉県、さいたま市優秀教員に認定された先生の講義
(1日の学校生活の中でのやりがい、教師としてのライフ
コースから見たやりがいを熱く語っていただきました)

3 取組の成果と課題

平成21年度の参加状況

回	月 日	内 容	参加人数
1	10月22日	開校式(特別プログラム)	59名
2	10月29日	知っていますか、教師の一日と学校の一年間	60名
3	11月5日	社会人、教育公務員として必要な基礎的な法知識	55名
4	11月12日	どんな仕事をすればいいの 校務分掌	48名
5	11月19日	子ども理解ってどうすればいいの	47名
6	11月26日	保護者・地域との出会いと対応がものをいう	55名
7	12月3日	学校での効果的な教材研究の方法	45名
8	12月10日	知らないで済まされない学校事故への対処の仕方	42名
9	12月17日	評価って、どうやってつけるの	41名
10	1月14日	生徒指導の基礎・基本	30名
11	1月14日	実験・観察のポイント	13名
12	1月21日	学級通信づくりの基礎・基本	24名
13	1月28日	道徳の授業を作ろう	35名
14	1月28日	特別な支援を必要とする子どもへの対応	29名
15	2月4日	学級経営案を作ろう	22名
16	2月4日	授業の核は発問づくり	19名
17	2月18日	学級びらき「始めの4日間で何をするか」	20名
18	2月18日	学級事務に強くなろう	14名
19	2月25日	第1回保護者会を乗り切るために	20人
20	2月25日	閉講式「教師の魅力とやりがい」	20人

まず、課題の一つであった、参加人数の拡大については、昨年度同様やや先細り気味ではあるが、昨年度の平均21.9人、今年度は34.9人とおよそ1.6倍の参加数を得ることができた。

次に、この講座に参加した学生の感想を拾ってみる。

- ・現職の先生方から直接話を伺う機会が多くあったことは大変ありがたかった。
- ・ぜひ、単位化し多くの学生が参加した達成感を得られるようにしてほしい。
- ・中学校向けとか校種別でも開催してもらえるといい。
- ・継続して出てよかった。
- ・教職の準備を考えると何をしてもよいかわからなかったもので、この授業が大変助けになりました。
- ・教職に就いたら必要となる知識を事前に身につける機会となったことはよかった。
- ・試験に合格した人と一緒にやることに戸惑いを感じたが、4月から教壇に立つにあたって、励まし合ったりできる仲間だと思います。不安だったことも一つ一つ解決していったように思います。
- ・期待よりも不安が多い中、見本や指針となるものに出会えてよかったです。
- ・学んだことを整理して、4月を迎えたい。

- ・現場との距離が近づいた気がします。
- ・この講義は、教師の楽しさを教えてくれるものが多く、意欲が高まった。
- ・実践的な内容で、演習が多かったのがよかった。

このように感想から見ると、この講座に対してどの学生も好評であり、4月を迎えようとする不安な時期に、具体的な内容を、現職の先生から聞き、仲間と一緒に活動できる機会を持つことができたことは有意義であったことが想像できる。

さらに、参加学生10名を無作為に抽出し、中間と最終回に質問紙調査を行い、その変容からこの講座の成果と課題をもう少し探してみよう。

質問紙では、4段階尺度で、この講座の有益性、教壇に立つ意欲、学びの定着に向けた取組、教師への自信についての4つの項目を尋ねた。また、自由記述でこの講座をきっかけにどんな準備を実際に始めたか、加えて全体的な感想を求めた。

表 1

平均点	中間	最終回
①ためになる	3.4	3.8
②意欲が高まった	3.2	3.6
③授業内容を整理する	2.1	2.3
④教師への自信	2.4	2.6

表1の4項目については12月17日と2月25日の2回調査を行い、得点化したものである。

この結果をみると、どの項目についても向上してきているのが分かる。特にこの講座の後半は、現職の先生方との演習を通じての内容を多く組み込んでおり、その効果の表れではないだろうか。

また、教職に就くための準備として、10名中6名が、本を買い、読み始めているとしている。その他教職の準備として、実践のビデオを見ている、苦手なピアノの練習を始めた、学校フィールド・スタディで今まで以上に先生の動きを見、質問している、教職1年目の先輩に経験談を聞くために飲みに行っているといったユニークなものもあった。特に取り組んでいないと答えた学生は2名であった。この講座を受ければ安心ということではなく、この講座が自らの教職準備を始めるきっかけにつながった意義は大きいと考える。

ここで、特に注目したいのはAさんの感想である。Aさんは4月から臨時採用教員として教壇に立つ。「本採を受けて採用された方とやはりいろいろな差があると思いましたが、この講座を受けたい、この講座を受けなければと思いました。この講座を受けたことで、来年度ベテランの方や本採の方とも同じ教壇に立つことに楽しみを感じられるようになりました。」と感想で綴っている。臨時採用として教壇に立つ身になって考えれば、来年度の採用選考試験への不安、臨時採用教員としての不安は、

本採用より大きなものであろう。この講座が、臨時採用として教壇に立つ学生にもいくばかりかの勇気を与えることができたことはうれしい限りである。

さて、次年度に向けての課題を最後にまとめておきたい。

一つは、やはり参加者の層の拡大である。

二つ目は、校種に応じた内容を組み入れることである。

三つ目は、現職教員からエネルギーをもらう内容を工夫していくことである。

おわりに

私は、2年間にわたり教員を目指す学生に対して、教職支援セミナー、学校フィールド・スタディ等を通じて、かかわってきた。自らの体験を経験に変え、自らの学びを充実させていくこと、丹念に努力の小石を重ねていくことが、より良き教師への道につながるのだと確信している。教師を目指す皆さんの成長を心より願って、本稿を終わりたい。